



目次

巻頭言「大学図書館における学生協働」	2
第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムを開催しました！	3
図書館で働く学生スタッフ	7
学生にすすめるこの1冊	8
河野晶苑文庫について	8
シリーズ学部資料室紹介(1)：法文学部	9
中央図書館からのお知らせ	11
医学部分館からのお知らせ	12
図書館日誌	14

巻頭言「大学図書館における学生協働」

教育・学生支援機構学生支援センター

(スチューデント・キャンパス・ボランティア担当)

准教授 平尾 智隆

2017年9月5日(火)から9月6日(水)にかけて、愛媛大学において大学図書館学生協働交流シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、中国四国地区大学図書館協議会の主催のもと今年で7回目の開催となりました。今回は愛媛大学図書館だけでなく、松山大学図書館、愛媛県立医療技術大学図書館と実行委員会を組織し、全国から多くの参加者を迎え入れることができました。

さて、言うまでもなく大学図書館は、大学のリソース(資源)を代表するものです。蔵書の質量、サービスのあり方は、大学における教育研究または学習を規定し、大学の質に大きな影響を与えます。そのような大学にとって重要な施設・場所のあり方を学生とともに学生の視点から考えるシンポジウムがあるということを知ったのは、恥ずかしながら2年ほど前になります。図書館職員の方との会話の中で「近い将来、大学図書館学生協働交流シンポジウムを愛媛大学で開催することになるかもしれないが、その時には学生も参加・協力してほしいと思っている」と言われたのが、このシンポジウムを認識した最初だと記憶しています。正式に決まった昨年、本学の公認学生ボランティア団体である図書館サポーターがシンポジウムに向けた意識づけと準備をはじめていました。

図書館サポーターは、愛媛大学公認の学

生ボランティア団体であるスチューデント・キャンパス・ボランティアの一団体です。図書館司書を目指す学生と「学生にもっと図書館を利用してほしい」と考える図書館職員との思惑が一致してできたボランティア団体です。2005年からその活動がはじまりましたが、現在の活動内容は、空き授業時間を利用した図書館活動への参加や月刊情報誌の発行、オススメ本の紹介企画などを行っています。

そして、この1年ほど図書館サポーターは、この大学図書館学生協働交流シンポジウムの活動に多くの時間を使ってきました。その意味では、日々の活動に加え、この1年間は図書館との学生協働が行われていたということになります。「シンポジウムを開催することになったがどうやったらいいだろう?」「シンポジウムの開催が決まったので、みんな協力よろしく!」と会議を重ねている図書館サポーターの姿を見て、「これも大学図書館学生協働だな」という考えに至りました。全ての時間に関係していない学生もなかにはいますが、シンポジウム開催当日の様子などを見ていると、図書館と学生団体が1年の間、組織的に濃密な協働を行えたことは大きな成果であったのではないかと思います。

他務との関係でシンポジウムの全てを見ることはできなかったのですが、他大学図書館の職員や学生と交流することで、そ

それぞれが自分達の位置、強みや弱み、特色を相対的に認識することができたのではないのでしょうか。図書館サポーターも中四国・全国にいる仲間・ライバルの存在を知り、交流することで大きな刺激を受けたことと思います。

学生ボランティア団体を束ねる立場として気になるのは、この1年間の濃密な協働

を今後ふだんの活動の中で、どういふかたちで維持・発展させていくかということです。イベントの力を借りた一過性の協働に終わらないように、そこで見えた課題を関係者が意識しながら日々の活動に取り組んでいくことが重要なのだと思います。今後の協働と交流のあり方に注目していきたいと思っています。

第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムを開催しました！

平成29年9月5日(火)・9月6日(水)で、大学図書館学生協働交流シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、全国の大学図書館で学生協働に携わる職員と学生が集まり、話し合いや情報共有を行い、それぞれの活動をさらにブラッシュアップしていこうというイベントです。北は東京から南は沖縄までの32大学の33図書館、教職員・学生あわせて約160人が参加しました。

第7回目となる今回は、愛媛大学・愛媛県立医療技術大学・松山大学の図書館職員および図書館で活動している学生たちが中心となり、企画から運営までを行いました。

プログラムは、5日がオリエンテーション・ランチミーティング(交流会)・ワークショップ・愛媛大学図書館見学、6日がポスターセッション、松山大学図書館見学、という構成でした。

各プログラムの詳細は次のとおりです。



【オリエンテーション】

オリエンテーションでは、まず、3人1組の班に分かれ、自己紹介とアイスブレイクを行いました。アイスブレイクでは、時間制限あり・班対抗戦式のゲーム方式をとり、「図書館で自分がやりたいこと」というお題で、アイデアを出しあいました。職員は図書館で行う業務として、学生は団体の活動として、また、職員・学生問わず個人でやりたいことなどを書き出し、あつというまに100以上のアイデアが集まりました。



次に、午後のワークショップに向けて、自分の考えを整理するワークを行いました。

自分が参加するワークショップのテーマについて、「悩んでいること」「現状はどうか」「今の時点でもできていること」「未来のありたい姿」について、段階をおって書き出しました。書き出したものは、オリエンテーションの班の中で共有し、互いにどういう思いを抱いてシンポジウムに臨んでいるかを再確認しました。

そして最後に、オリエンテーションの班から離れ、午後のワークショップで話し合う班のメンバーを探す「メンバー探し」ゲームを行いました。



ワークで書き出した「悩み」等を持参し、その場にいる参加者とお互いに自己紹介をしながら、メンバーを見つけ出していきました。見つかったメンバーと一緒に、班内で改めて自己紹介をしたり、ワークで書き出した「悩み」などを共有したりして、ワークショップへつなげる下地を作りました。

【ランチミーティング（交流会）】

ランチミーティングでは、愛媛の料理やお菓子（タルトなど）を味わったり、楽しくおしゃべりをしたりしながら、親睦を深めました。



【ワークショップ】

ワークショップの前半は、学生・教職員ごとに、自分で選んだテーマごとに分かれ、ワークを行いました。話し合ったテーマは、学生が「士気」「情報共有」「広報（図書館外での）」「企画・活動・団体」「図書館の利用」「図書館への要望」、教職員が「学生とのコミュニケーション」「活動の継続」「学生の自主性」「学生のモチベーショ



ン」「広報・周知」「役割分担・その他」です。

ワークショップの各班では、主催校である、愛媛大学・愛媛県立医療技術大学・松山大学の学生または職員が進行役を務めました。今回のシンポジウムの副題でもある「悩み解決」に1歩でも近づくように、ワークの目的を「原因分析」か「目標設定」(またはその他)のいずれかに設定し、それに合わせて進め方を決め、班の中で議論をしながらワークを進めていきました。

ワークショップの後半は、ワークショップの前半でまとめた成果を、班ごとにパネルに掲示し、全体での共有を行いました。それぞれのパネルには、班ごとに説明役が控え、班の中での議論の様子や成果についての質疑応答に対応しました。



【愛媛大学図書館見学】

愛媛大学図書館見学では、愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア (Student Campus Volunteers) の一団体である LS (Library Supporters: 図書館サポーター) の学生たちがガイドを務め、愛媛大学図書館および図書館の中での自分たちの活動について案内をしました。



【ポスターセッション】

ポスターセッションでは、参加館のうち、20大学の21図書館がポスターを発表しました。

今回のポスターの発表テーマは「テーマ1: 教えて! みんなの図書館と団体『わたしたちは〇〇です!』」「テーマ2: 理想の図書館に向けた宣言『理想の図書館のために〇〇します!』」「テーマ3: 振り返ろう、シンポジウム『楽しかった』のその先へ」の3つです。

テーマ1ではそれぞれの団体の紹介を、テーマ2では自分たちが今後図書館でどうしていきたいかの展望を、テーマ3ではこれまでの第1回から第6回までのシンポジウムへ参加しての振り返りを行いました。



それぞれ工夫の凝らされたポスターの近くには、ポスターの発表者である各団体の

学生たちが控え、質疑応答に対応しました。学生の熱心な説明や、活発な質疑応答、深く聞き入る参加者などで、会場は熱気に包まれていました。

会場内に設置された、各大学へのコメントや質問を書くパネルには、あっというまにコメントや質問があふれ、同じく会場内に設置された、「図書館」をキーワードにアイデアを出すヒントが書かれたパネルの前では、メモをとる参加者も数多く見られました。



【松山大学図書館見学】

松山大学図書館では、松山大学図書館・図書館学生アドバイザースタッフ「C3」(*1)の学生たちが、松山大学図書館の館内や自分たちの活動について案内して回りました。(*1…「C3」＝「Chance(機会)」・「Challenge(挑戦)」・「Change(変化)」の頭文字3つ)

シンポジウムに関する詳細・記録



<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/sympo2017/>

図書館で働く学生スタッフ

中央図書館では11人、農学部分館では2人の学生スタッフが働いています。中央図書館で働いているスタッフの内5人は、館内で様々な作業を行い、他の6人は延長開館時にカウンター業務を行っています。

今回は、中央図書館で様々な作業をしている学生スタッフの仕事を紹介します。

主な業務内容は、利用者から返却された書庫資料を所定の棚に返すことですが、その他にも、書庫内で重複している図書のチェック、蔵書点検、シラバス図書の入れ替え作業等、色々なことを行っています。



【書庫資料を所定の棚に返す】

中央図書館の書庫に入ったことがある方はわかると思いますが、書庫は迷宮のようになっています。また、図書の受入時期で置き場所も異なり、もともとあった場所に図書を返却するのも大変です。

【書庫内で重複している図書のチェック】

書庫が満杯のため、書庫内で重複している図書を減らす作業を行っています。学生スタッフは重複している図書を抜き出し、残す図書（状態のきれいなもの）の選別作業をしています。

【蔵書点検】

毎年、夏休み中に蔵書点検(図書の棚卸し)をしています。これは図書のバーコードをハンディスキャナで読み取り、あるべき場所に図書があるか、行方不明のものがいないかを点検するものです。

1冊ずつ読み取る作業で、中央図書館のオープンスペースに置いている大量の図書を処理しなければならないため、学生スタッフの助けなしではできない状態です。

【シラバス図書の入れ替え】

図書館ではシラバスに参考図書として挙げられている図書をまとめて配架していますが、同じ授業であっても、講義内容の変化によって挙げられている図書が昨年度と今年度で違うことがあります。

この他にも色々な作業を行ってもらい、学生スタッフの若い力には、いつも助けられています。



学生にすすめるこの1冊



書名：生命の起源・地球が書いたシナリオ

著者：中沢弘基

出版：新日本出版社、2006年

所蔵：中央図書館、農学部分館 467.5/NA

【大学院農学研究科生命機能学専攻 教授 岸田太郎】

我々の体の構造や生命維持の仕組みはタンパク質によって支えられています。タンパク質は20種類ものアミノ酸が正確な順番で一列に数千個から場合によっては億に近い個数が並んでできています。この並び順の情報がDNAにあることはよく知られていますが、どうしたらこんな複雑なシ

ステムがこの世にできたんだろう？誰もが一度は疑問におもうこの問題に、著者らは大胆な仮説で挑んでいます。まさか岩石？これが真実かどうかはまだまだ後世に引き継がれるものであろうが、生命の原理を真剣に考えるきっかけになるとても面白い本です。

河野晶苑文庫について

河野晶苑（こうの しょうえん）氏（1924~2000）は東京府豊多摩郡で出生しましたが、親の郷里が旧西宇和郡保内町（市町村合併により現在は八幡浜市）であった関係で、宇和島高等女学校を卒業し、上京しました。その後、明治大学在籍中に当時篆刻家として名を馳せていた松丸東魚（まつまる とうぎょ）氏に師事しました。以来50年以上篆刻の道を歩み、昭和27（1952）年に毎日書道展最高賞（毎日賞）、日展初入選を果たすなど数々の作品を製作、出品し、女流篆刻家の先駆けとなった人物です。

ご遺族の飯田美年子氏のご厚意により、平成25（2013）年7月に図書館に寄贈された篆刻作品は、晶苑氏が20代から作り続けた日展・毎日展の作品を中心に、555点にも上ります。また、寄贈された蔵書は、印譜類

の和装本、その他書籍の合計で1,163冊からなります。愛媛大学図書館では、これらの作品・書籍を『河野晶苑文庫』と命名して大切に保存し、未永く教育・研究に活用させていただくこととしました。

寄贈された篆刻作品のほとんどは、図書館ホームページで紹介していますので、是非一度ご覧ください。



「挈瓶知」1958年

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/SHOEN/shoen.html>

シリーズ学部資料室紹介(1)：法文学部

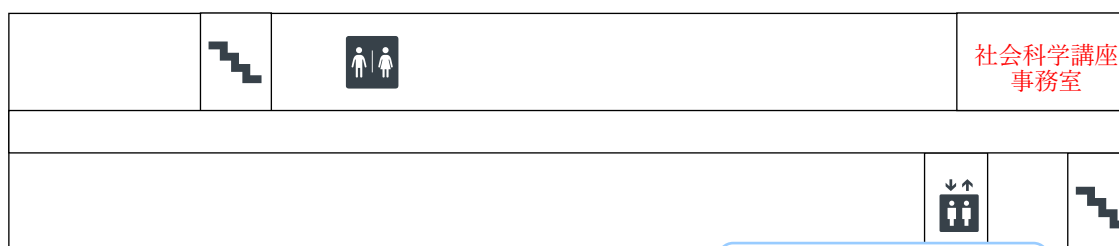
法文学部は社会科学系と人文科学系に大別されます。学部資料室で所蔵している資料の検索は、図書館ホームページ上の蔵書検索（OPAC）を利用してください。

また、利用に当たっては、各事務室に申し出て職員の指示に従い利用してください。各々の事務室、資料室、教員研究室は、各建物の玄関ホール案内板で確認できます。

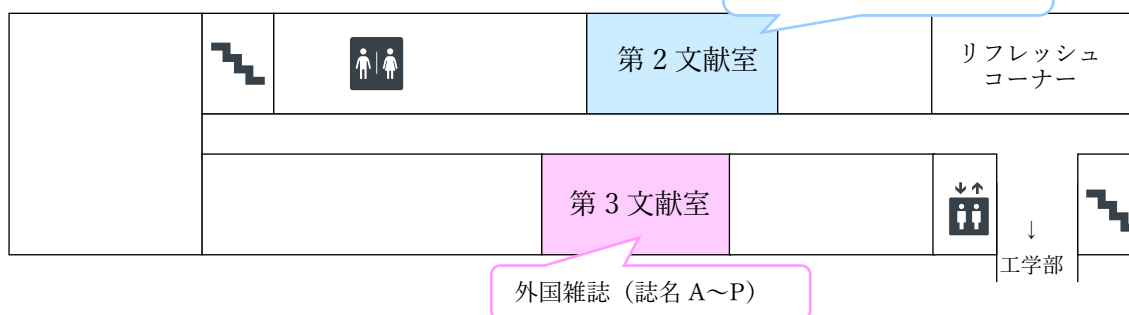
【社会科学講座】（総合研究棟 II）

図書館蔵書検索（OPAC）の検索結果が「研究室 法・社会科」となっている図書・雑誌類は、主に第1～第3文献室で所蔵・管理されています。

総合研究棟 II：4階西側



総合研究棟 II：3階西側



共通講義棟 B・総合教育棟 1：1階



《利用方法》事務室（総合研究棟 II・4階）で鍵を借ります。文献室から資料を持ち出す場合は、事務室内の貸出簿を記入し鍵を返却します。利用後は、再び鍵を借り、資料を元の場所に返し、鍵を返却する際に貸出簿に を付けます。

《利用日時》平日 9:00～12:00、13:00～16:30 のみ

《返却期限》貸出当日の 16:30 まで

中央図書館からのお知らせ

COC+との連携で就職関係の図書を增強しました！

愛媛大学は、文部科学省による平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に選定されており、「事業参加校トータルでの愛媛県内就職率を5年後に10%アップ」という目標を掲げています。

中央図書館ではその取り組みの一環とし



て、学生の皆さんが卒業後も愛媛に残り、愛媛で働き、私たち愛媛大学とともにもっとこの地を盛り上げてほしいとの願いを込めて、「働く」応援コーナーに新たに「地域の魅力を発見しよう!」のカテゴリーを設けました。この他にも「人生のセンパイに学ぼう!」「ガンバレ女子!」「社会人スキルを身につけよう!」「自分の視野を広げよう!」のカテゴリーがあり、合わせて約200冊の本を追加しています。

就職を考えている学生だけでなく、スキルアップを図ったり仕事へのモチベーションを維持したりしたい教職員にとっても参考になるコーナーになっていますので、まだご覧になっていないみなさんも是非足をお運びください。

各種講習会を開催しています。

中央図書館では各種講習会を開催しています。

4月から6月にかけて、学部・大学院・編入の新生向けに授業等で利用ガイダンスを開催し、25回約1,700人に対し、シチュエーションに応じた図書館の使い方を説明しました。

また、6月21日にはエルゼビア社から講師を招き、世界最大級の抄録・引用文献デー

タベースである「Scopus」の講習会を開催し、17人の受講がありました。10月5~6日には、化学情報協会から講師を招き、化学系では最も有名なデータベースである「SciFinder」の講習会を開催する予定です。

通年で「レポート・卒論のための資料集め講座」をオーダーメイドで承っていますので、必要に応じて各種講習会をご利用ください。

鈴鹿文庫を撮影しました。

図書館所蔵の鈴鹿文庫は、鈴鹿三七氏(京都市左京区)の旧蔵書で、鈴鹿家が中世以降の神道家であるため、蔵書の中心は神道関

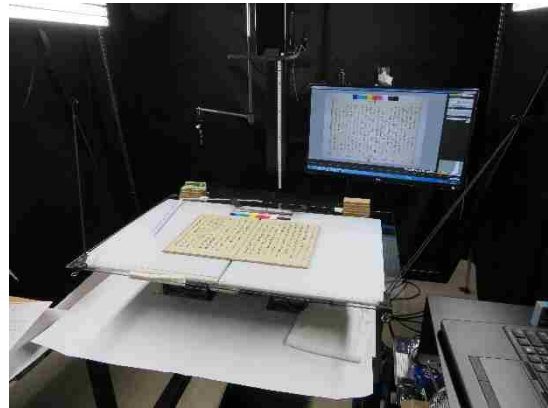
係ですが、物語、随筆、日記類も含まれており、書写本、板本、複製本、活字本、軸物、箱物等7,432点からなります。

図書館では、平成 15 年度から継続して国文学研究資料館と協働し、鈴鹿文庫の電子化（デジタル撮影及びホームページでのデジタル画像公開）の事業を行っており、平成 28 年度までの 14 年間に、734 点の資料が電子化されました。電子化された資料は、図書館ホームページ

(<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/SUZUKA/>)

で公開しています。

また、平成 29 年度も 7 月 24 日（月）から 27 日（木）の 4 日間で、26 点、約 3,000 カットのデジタル撮影を完了しており、ホームページでのデジタル画像公開のための作業を現在行っています。



当初に予定した資料の電子化完了までは、まだ数年かかる見通しですが、今後も図書館のデジタルアーカイブを充実させていく予定ですので、ご期待ください。

医学部分館からのお知らせ

Ovid EBM Reviews 講習会を開催

実施会場：医学部総合教育棟組織実習室

実施日時：平成 29 年 8 月 29 日(火) 18:00~20:00

対 象：医学系研究科博士課程の大学院生及び
それ以外の学生・教職員



医学部分館では、大学院医学系研究科医学専攻博士課程専攻共通科目「基礎研究方法論」の一環として、Wolters Kluwer 社から講師を招き、臨床家向け文献データベース「Ovid EBM Reviews」の講習会を開催しました。

このデータベースは、EBM(Evidence Based Medicine、経験や直感に頼らず、科学的根拠に基づいた最適な医療・治療)を実践する際に必要な情報を提供するもので、Cochrane Library や ACP Journal Club などの 7 つから構成されています。また、

MEDLINE(生物医学系の世界的データベース)や Journal@Ovid(電子ジャーナル)などと連携させることで、臨床現場での EBM をサポートする強力なツールとなります。講習会には、昨年を上回る 22 名の学生及び教職員が参加し、前半では、データベースの基本理念やそれに関する科学的手法、各種研究プロセス等について、後半ではデータベースの特長や利用方法について実践を交えながら説明がありました。受講者は、講師の話に熱心に聞き入り、データベースへの理解を深めていました。

設備のご案内

医学部分館では、個人学習やグループ学習、討論など、各種学習形態を提供する場（ラーニングcommons）を各所に設けていますが、その中でも特徴的な設備をいくつかご案内します。

・個人用学習机

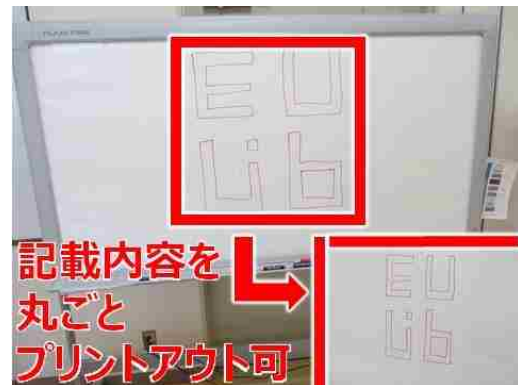
1階2階合わせて計72台を設置しています。特に天板は、新聞紙を両面広げた大きさよりもさらに一回り大きく、多くの資料を広げて勉強するのに便利です。



・グループ学習室

可動式のテーブル、椅子及びホワイトボードを計6セット設置しており、人数に合わせて自由に組み合わせられます。また、室内は会話も可能です。

なお、ホワイトボードのうち1台は、ボードに書いた内容をそのままプリントアウトできるコピーボードとなっています。



・PCルーム

総合情報メディアセンターが管理するパソコンを13台設置しており、オンライン学習等に便利です。

また、室内前方に設置してある4K液晶ディスプレイは、講習会やガイダンス等、映像資料を複数人で閲覧する場合に活用されています。ディスプレイを利用したい場合は、事前に窓口へご相談ください。



図書館日誌

- 5月9日 CINAHL 講習会 (医学部)
18日 Scopus 講習会 (医学部) ~19日
24日 平成29年度第1回医学部分館図書委員会
31日 高知県立高知南高等学校の保護者及び教職員10名来館
- 6月1日 平成29年度第1回図書館委員会
高知県立岡豊高等学校の保護者及び教職員25名来館
6日 平成29年度第1回農学部分館図書委員会
8日 ブックハンティング2017 (医学部) ~9日
21日 Scopus 講習会 (城北)
22日 第64回国立大学図書館協会総会 (TKP ガーデンシティ千葉) ~23日
28日 職場体験受入 (附属中学校2年生2名)
- 7月3日 平成29年度大学図書館職員長期研修 (筑波大学) ~14日
モンゴルから医療従事者8名来館 (医学部)
医学部分館蔵書点検 ~7日
5日 館長とLS (SCV.図書館サポーター) の座談会 LS10名参加
6日 愛媛地区大学図書館協議会総会
14日 2017年度JUSTICE電子資料契約実務研修会 (広島大学)
27日 2017年度機関リポジトリ新任担当者研修 (国立情報学研究所) ~28日
31日 農学部分館蔵書点検 ~8月10日
第2回電子ジャーナルWG (大阪大学)
- 8月4日 愛媛県図書館講習会 (県立図書館)
17日 中央図書館蔵書点検 ~29日
29日 Ovid EBM Reviews 講習会 (医学部)
30日 全国遺跡報告総覧・実務者会議 (奈良文化財研究所)
- 9月5日 第7回大学図書館学生協働交流シンポジウム ~6日
9日 日本留学フェア (韓国) に館員が参加 ~10日

愛媛大学図書館「図書館だより」第103号 2017年10月1日発行

編集：館報編集委員会

発行：愛媛大学図書館 〒790-8577 松山市文京町3番 TEL (089)927-8845
